

Nursery Rhyme in Perth

Hickory, dickory, dock

**Hickory, dickory, dock,
The mouse ran up the clock.
The clock struck one,
The mouse ran down,
Hickory, dickory, dock.**

「Humpty Dumpty」の文献での登場は 1797 年
作者不明

元々、このナーサリーライムは「Humpty Dumptyは何でしょう？」というなぞなぞ歌として作られました。しかし、今日ではその「Humpty Dumpty」を「卵」とする説が有名になっているため、なぞなぞ歌として歌われることはほとんどなくなりました。その昔の17世紀末には「Humpty Dumpty」をビールとブランデーを一緒に沸かせた飲み物の名称として使っていたようです。また「Humpty Dumpty」は英国の作家、ルイス・キャロルの童話『鏡の国のアリス』に登場するキャラクターとしてもよく知られています。

「Hickory, dickory, dock」の文献での登場は 1744 年
作者不明

このナーサリーライムのオリジナルは、数え歌であったと言われています。英国の北西部にあるWestmorlandの羊飼いたちが独自に使っていた数字に Hevera (8)、Devera (9)、Dick (10) があり、これらの数字が「Hickory, dickory, dock」の元になっていると言われています。英国の推理作家、アガサ・クリステイによる推理小説『ヒッコリー・ロードの殺人』の原題はこの「Hickory, dickory, dock」から引用されています。また、アガサ・クリステイは他にも「A Pocket Full of Rye (ポケットにライ麦を)」や「And Then There Were None (そして誰もいなくなった)」といったナーサリーライムを引用した作品をいくつか遺しています。

Humpty Dumpty

**Humpty Dumpty sat on a wall,
Humpty Dumpty had a great fall.
All the king's horses,
And all the king's men,
Couldn't put Humpty together again.**

Ring-a-ring o' roses

**Ring-a-ring o' roses,
A pocket full of posies,
A-tishoo! A-tishoo!
We all fall down.**

「Ring-a-ring o' roses」の文献での登場は 1881 年
作者不明

子どもたちが輪になって回りながら歌うナーサリーライムです。様々な歴史的背景が隠されていると言われていますが、このナーサリーライムもその一つです。1665年に発生したロンドンの大疫病、ペストの大流行について歌われたものであると言われています。“rose”はペストの症状を、“posy”はペストを防ぐ薬草の束を、“A-tishoo”はペストの末期症状であるくしゃみをそれぞれ表しており、そして“all fall down”には、みんな死んでしまうという意味が隠されていると考えられています。